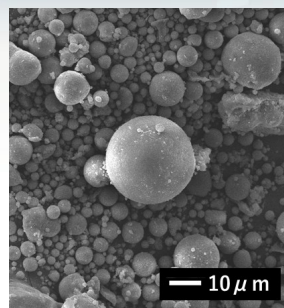


バイオマス灰の有効活用技術

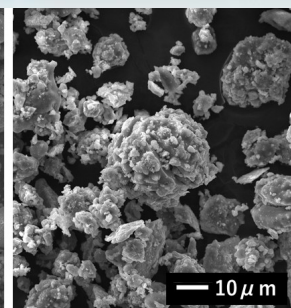
CO₂削減や材料費削減に繋がり、発電事業の収益改善に貢献!

バイオマス灰の現状

再生可能エネルギーとして注目されているバイオマス発電所からは産業副産物であるバイオマス灰が発生します。多くの電気事業者は灰の処理に困っており、**有効活用の用途が広がれば収益改善**にもつながります。安藤ハザマが参画している坂出バイオマス発電事業（2025年6月に運転開始予定）を見据えバイオマス灰を用いた技術開発を進めております。



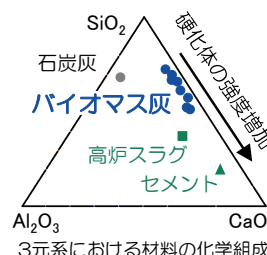
石炭灰



バイオマス灰

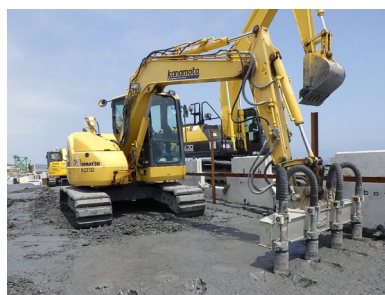
バイオマス灰の特徴

バイオマス灰は石炭火力発電所から発生する石炭灰（フライアッシュ）と見た目は似ています。しかし、石炭灰に比べるとバイオマス灰は若干粒径が大きく、表面が粗くなっています。一方で、硬化体の材料として用いると石炭灰よりも強度が高くなることがあります。そのため、**高炉スラグやセメントに近い性質を有する材料**として使用できる可能性があります。



適用事例(案)

安藤ハザマの技術であるアッシュクリートにおいてバイオマス灰を使用することで路盤材や盛土材として適用できます。また、コンクリート用の混和材（セメント代替）として用いることで**CO₂削減や材料費の削減に繋がる**可能性があります。



盛土としての利用（防潮堤内の砂代替）



路盤材（破碎材）



コンクリート二次製品



流動性の高い充填材